東京都東久留米市

2023/3

郷土資料室通信 No.63

東久留米の近代史シリーズ５

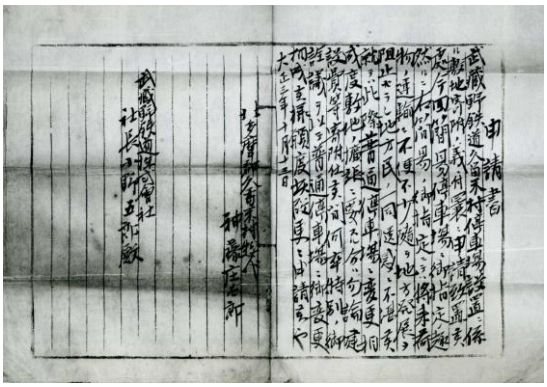
武蔵野鉄道東久留米駅（４）

東久留米駅の誕生・２

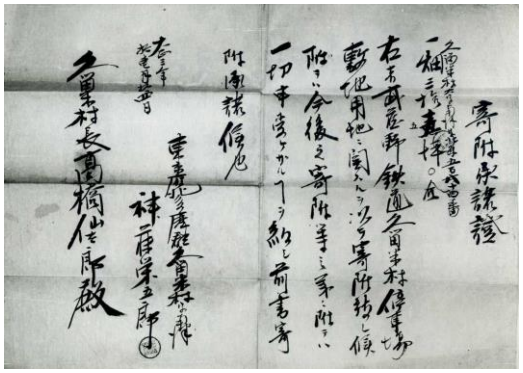
武蔵野鉄道の敷設については、久留米村を通過することは決定していましたが、当初は、現在の位置より北の路線と南の路線の２案があったといわれています。その第１案は、大泉村→保谷村→久留米村大字神山→所沢町という北路線で、第２案は、大泉村→保谷村→久留米村大字前沢→同大字下里→所沢町という南路線でした。しかし、その両案とも久留米村内に駅（停車場）を作らないことでは共通していました。そこで、久留米村の地に駅を作るために尽力したのが神藤庄太郎氏でした。神藤氏は、村会議員や学務委員、後には郡会議員を務めた人で、かねてから久留米村の発展のために鉄道を誘致することの必要性を痛感していました。武蔵野鉄道の計画に久留米村に駅の予定がないことを知ると、同社の株主となり、ほとんど独力で駅の誘致に奔走したといわれています。

当初、村民のなかには、汽車の煤煙が養蚕に悪影響を与えるとか、燃え殻による火事を心配する声も少なくなかったようですが、神藤氏等の５年にわたる地道な活動と武蔵野鉄道への陳情の結果、ついに久留米村への駅の誘致に成功しました。

しかし、武蔵野鉄道の計画では、駅は簡易停車場であり、本格的な停車場ではありませんでした。そこで、さらに普通停車場への変更の陳情を続けました。停車場の設置にかかわる土地の寄付と建設費等の経費を負担



普通停車場の設置変更申請書
1914 年（大正 3 年）10 月 13 日・『市史史料』158（p474）・高橋家文書・個人所蔵・市マイクロフィルム



鉄道開通に伴う土地寄附承諾證
1914 年（大正 3 年）・『市史史料』159（p474）・高橋家文書・個人所蔵・市マイクロフィルム

するという条件も付し、最終的に土地の寄付は、３，２００坪（10,579 ㎡）に及びました。このような努力が実って、久留米村に普通停車場の設置が決定されたのです。このような駅誘致の経緯やさまざまな条件を検討して、東久留米駅は久留米村大字南沢６５３番地の現在の場所に普通停車場として誕生したのです。

※簡易停車場は規模による分類で、普通停車場は目的による分類ですが、いずれにしても簡易停車場では貨物の取扱いがありませんでした。

普通停車場の設置変更申請書

一九一四年（大正三年）十月一三日

申請書

武蔵野鉄道久留米村停車場設置ニ係ル敷地寄付ノ義ニ付曩ニ申請致置候処今回簡易停車場ニ御指定ノ趣然ルニ右簡易ノ御指定ニテハ将来荷物ノ運輸ニ不便不少随テ地方発展ヲ阻止セラレ地方民ノ一同遺感ニ不堪候

就テハ此際普通停車場ニ変更相成度敷地ノ拡張ニ要スル分ハ勿論建設費等寄付仕候間何卒特別ノ御詮議ヲ以テ普通停車場ニ御変更相成度候様願此段更ニ申請候也

大正三年十月十三日

北多摩郡久留米村総代
神藤庄太郎

武蔵野鉄道株式式会社
社長小野五郎殿

神藤庄太郎翁之像と顕彰碑

神藤庄太郎顕彰碑　碑文

神藤庄太郎翁は明治八年二月十七日、南沢村農常右衛の長男に生まれる。資性豪放潤才気煥発義侠心に富み力を公共福祉の為に尽くされた。されば少壮より衆望を担って久留米村会議員、同学務委員に選出されること数回に達し地方自治の発展と義務教育の振興に貢献された功績は苟に大きい。また北多摩郡会議員、同郡農会議員に選出され鄙政並に農政に参画し其の進歩発展に寄与された功績も亦頗る大である。翁が特に心魂を傾け努力した事業は郷土開発の為に武蔵野鉄道（西武池袋線）敷設東久留米駅誘致の大事業であった。当時の久留米村は交通の便極めて悪く物資の輸送はもとより勤労者の通勤、学生の通学等如何ともしがたく蓋し文化に取残された僻村の感があった。翁は敢然として奮い立ち私有地三千余坪を鉄道会社に寄付し東奔西走五ヶ年の長期に亘り苦心惨愉の結果遂に大正三年（一九一四）当地に新駅の決定を見るに至った。大正四年四月十五日鉄道開通、東久留米駅開設されるや此の画期的新気運に人皆希望に輝き郷土を挙げ喜び合った。

昭和三十五年三月七日

東久留米駅北口を出て、商店街を左に曲がりながら線路方向に歩いていくと右手に小さな武蔵野稲荷神社（東本町六）が見えてきます。その境内に東久留米駅誘致の立役者である神藤庄太郎氏の像と顕彰碑があります。

（東久留米市文化財保護審議会委員　山﨑　丈）

編集・発行　　東久留米市郷土資料室（東久留米市教育委員会生涯学習課文化財係）
203-0033　東京都東久留米市滝山４-３-14　東久留米市わくわく健康プラザ内
電話　０４２－４７２－００５１
無断転載はしないでください